

国分寺市議会議員

皆川りょうこ

みな がわ

ニュースレター

2003年 春号



少子高齢社会、展望のもてる市政運営を

2月24日から3月26日まで開催された第1回定例会予算特別委員会では、一般会計予算370億5300万円に対して、多岐にわたり、問題点や課題が指摘され賛成少数で否決されました。(賛成6・反対18・退席、欠席3)

施政方針では「H15年度は大きく財政運営の方針を転換しなければならない区切りの年度」「民間的経営手法・目標管理制度」等掲げていますが、予算や財政フレーム上の具体策は見られませんでした。

また、行政の縦割りから庁内横断的な政策の検討の視点、個別事業の予算化、事業積み上げ方式から施策の選択、優先順位、更には長・中期の観点からも課題が残りました。今回の予算審議により、更なる借金・基金の減少は将来への不安へとつながることになり、反対しました。

行政内部、財政の改革を急がないと将来にツケを残すばかりか、少子高

齢社会への対応が遅れ、展望が見出せないままになります。

今後とも、行政評価を進め、改革・改善を求めています。

【指摘された主な課題や問題点】

- ◎基金を取り崩しての財政運営、H18には昨年策定した財政フレームより基金残高約半分
- ◎H18から発生する北口再開発など大型事業への財政負担
- ◎文化会館建設後、毎年数億円もの維持管理費の発生、その財源は？
- ◎今実施している事業を評価しないまま、新規の高齢者類似事業を実施。新たに発生する財政負担額は不明。



- ◎待機児解消策の一層の推進
- ◎職員の給与、手当等での改正については、市政執行者である市長が主体性を持って方向性を示すべき。
- ◎ペットボトルの処理に関して、処理業者との5年間の単価固定契約は法律の動向からしてムダを生む可能性がある。毎年見直しができるよう、単年度契約にすべき。
- ◎住基ネット「個人保護法の成立後に参加」の方針に疑問

◆身近な地域で安心して暮らすために

誰もが、それぞれの価値観や生活スタイルに合わせ、地域で安心して暮らしたいと思っています。現在痴呆性グループホームなどの基盤整備、障がいをもつ人が可能な限り地域で自立して生活できるような生活寮などの整備により、これまでの画一的な施設中心から、地域でのケアに重点を移すことが求められています。そこで、自分で必要なサービスが選択できるような仕組づくり「第三者評価システム・情報提供・権利擁護・苦情相談等」の整備が急がれます。

現在国分寺市では「高齢者地域保健福祉計画」の見直

し中です。今後、「障がい者・子ども」の計画見直しの

際には「地域福祉」という視点で、それぞれ有機的に連携できるよう、総合的な、NPO等人材・施設・サービスについての検討や拠点づくりも必要です。そのためにも、年齢対象別の、新たな建設ではなく既存施設の有効利用を進めていきたいと考えます。



心の豊かさが実感できるまちをめざして



特定の組織にとらわれない、自由な発想と立場で

かわる

行財政改革で展望のあるまち

財政健全化のためには、ハコモノをやめるなど、市民参加・職員参加で施策を大胆に見直し、財源を確保することが必要です。また職員研修の充実・意識改革等、内部改革を推進し、縦割り行政の解消で市民サービスの向上を目指します。

いきる

障がいがあっても、高齢になっても、誰もが自分らしく暮らす

障がい者・高齢者の暮らしを総合的に支援する地域福祉には、NPOや民間などとの連携は欠かせません。そのために今後は情報提供や専門職員の配置など市の体制を整えます。

はぐむ

子ども自身の育つ力を応援

虐待・不登校・ひきこもりなど、子どもに関わる課題が山積する中、これからは地域での見守りや協力がますます重要となってきます。そこで、学校・保育園・民間NPOなどの子育て関連事業の連携で、相談機能の充実を目指します。

やすらぐ

きれいな住みよいまちを、そして将来にごみ処理のツケを回さない

地下水保全策の推進により、水・緑を守ります。また、ごみの発生抑制・生ごみ堆肥化・再生品の利用促進により、脱焼却・脱埋め立てを目指し地球環境保全に努めます。

皆川りうこ

プロフィール

- 1957年 岩手県北上市生まれ
岩手県立黒沢尻北高等学校卒業・跡見学園短期大学・生活芸術科卒業後、日本警備保障(現セコム株)に入社
- 1988年より生協活動
- 1992年から94年までPTA活動に携わる
- 1995年 国分寺市議会議員に初当選。1999年に2期目に当選し今日に至る
この間、厚生委員会副委員長、委員長、総務委員会など常任委員会、学園跡地等周辺整備特別委員会副委員長として活動

*家族／夫・2男1女・夫の母・愛犬